

板橋区議会 幹事長会 御中

無所属 井上 温子

幹事長会の運営の一層の改善ならびに 区議会だよりのあり方についての提案書

国政では昨年政権交代が起こり、少子高齢化、復興や財政危機等、混迷する社会を打開していくには、多様性を尊重し、少数意見も活かす異次元の政策運営が一層重要になりつつあると考えられます。表記の件、下記の通り提案を申し上げますので、ご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。

1. 幹事長会の公開と議事録の公表、もしくは議会運営委員会にて議論をすることで、議論の見える化の推進を

議会運営に関わる事項は議会運営委員会にて議論を行うとされていますが、議会運営委員会に関わる事項であっても、その議論の多くが幹事長会で行われる場合もあります。幹事長会は非公開であることから、その議論は少数会派の議員はもちろん、有権者に伝わることもなく、開かれた議会を目指す板橋区議会としては望ましくないと言えるのではないのでしょうか。少数会派の議員に関係のある議題を当事者が把握出来ない幹事長会にて話し合わせ、方向性を決定するのは、少数会派の議員、そして議員が代表している有権者に対して民主的とはいいがたいと考えます。幹事長会の傍聴を可能にし、議事録を公開する、もしくは議論が必要な議題については、全て議会運営委員会で終始議論する仕組みへの改善を提案いたします。

2. 有権者に予算の議論を把握頂く為に区議会だよりでは少数会派の意見も平等な扱いを

板橋区議会は、他の地方議会よりも少数会派の意見の尊重と吸い上げに尽力され、有権者の多様な意見を区政に反映してきたのではと考えております。先日幹事長会にて、区議会だよりの紙面構成について、本会議の予算討論に関する各会派の本会議での提言を等しく掲載してきた現行を変えて、議席数に応じて少数会派の字数を削減してはとの議論が行われたとの報告を事務局より受けました。議事録がないため、詳細については分かりかねますが、区議会は、二代表制の一翼として予算のチェックを使命としています。予算における各会派の意見表明において、多様な意見の各会派がどのような提言を行ったかを等しい紙面構成で掲載する事は、有権者に予算の議論の全体像を把握頂き、判断を仰げるため、歴史的な積み上げがある、優れた工夫であると考えられます。これを変更するのは、有権者、そして二代表制にとって望ましくないと考えられます。よって、区議会だよりの現行の紙面構成の継続を提案いたします。

区議会だよりの編集は、幹事長会のメンバーが担うとの慣行ですが、傍聴は不可なのでしょうか。議員や有権者の見えないところで、少数会派に影響が出る内容を議論されるのは、議論すら出来ない区政となりかねず、課題と考えられます。編集委員会を設置し、傍聴を可とされますよう、提案いたします。

(以上)